【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	小城市立三里小学校

1　前年度 評価結果の概要	・達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。職員全体で課題や目標を共通理解し、学校がチーム一丸となった日頃からの取り組みの成果だと考える。 ・特別支援学級の児童が増加傾向にあるため、校内支援体制作りをさらに充実させる必要がある。 ・「地域との連携」については、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体と協議を重ね、今後も継続して改善や見直しを図っていく必要がある。
2　学校教育目標	ふれあい　チャレンジ　きらりかがやく　三里の子の育成 ～すべては子どもたちの笑顔のために～
3　本年度の重点目標	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上　(2) 人間性豊かな心の育成　(3)「志を高める教育」の深化

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○算数科の授業を中心に考えたことを説明し、深める活動の工夫を通して「主体的に自分の考えを筋道を立てて表現する力」を育む。	○学習等で、進んで自分の思いや考えを言葉や文章で友達に分かるように表現することができるようになった児童95%以上をめざす。	・「自分の考えの根拠や理由を図や式、言葉を使って、明確にして説明する」活動を設定する。	B	・「学習などで、進んで自分の思いや考えを言葉や文章で友達に表現することができている」児童が94%で成果指標を達成できていないが、今後も意図的に自分の考えを説明し合う活動を設定し、自信をもって説明できるようにする。	A	・「学習などで、進んで自分の思いや考えを言葉や文章で友達に表現することができている」児童が99%で成果指標を達成した。考えを説明し合う活動を意識的に設定したことで、児童が自信をもって考えを説明し、深める姿が多くみられるようになった。	A	・自分の思いや考えをもつこと、更に友達に筋道を立てて表現できることはすばらしい。
●心の教育	◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎縦割班活動を通して、班の仲間のよさを見付け、協力して活動できている児童90%以上をめざす。	・縦割班活動の中で、友達のよさを発表したり、振り返ったりする時間を設定する。	A	・縦割り班活動おいて、「班の仲間のよさを見付け協力して活動できる」児童が98%で成果指標を達成した。今後も日常の縦割り班活動や行事等で、仲間の良いところををよく見て、紹介し合う時間を設ける。	A	・縦割り班活動おいて、「班の仲間のよさを見付け協力して活動できる」児童が93%で、中間より低い結果となったが成果指標を達成した。どの学年も、縦割り班活動のめあてを意識して活動を取り組む姿が多く見られた。	A	・思いやりをもつことは、基本。 ・異学年児童との交流により班の仲間のよさを見つける、その視点がすばらしい。
	●いじめの早期発見、対応に向けた取組の充実	○三里小「いじめゼロ宣言」を守って生活している児童を95%以上にする。 ○心のアンケートの実施率を100%とする。	・SC、SSWと連携し、全職員でいじめ・不登校等の未然防止と早期発見、対応に努める。 ・「安心、自信、自由」を確認し、いじめゼロ宣言を、児童に浸透させる。	A	・中間アンケートにより「三里小『いじめゼロ宣言』を守って生活している」と回答した児童は100%で、よく意識できていることがわかる。日々の生活の中では、相手を思いやる態度に課題がある場面もみられるので、引き続き全職員で取り組んでいく。	A	・「三里小『いじめゼロ宣言』を守って生活している」と回答した児童は100%で、成果指標を達成した。人権集会や人権集会等の各種取り組み、また日々の関わりにより、自己や他者を大切にすることについて考える機会をもつことができた。 ・心のアンケートの実施は100%を達成した。教育相談週間はもちろん、日頃から児童の様子からいじめ・不登校の未然防止と早期発見、早期対応、その後の見守り、教師間の情報共有を十分に行うことができた。	A	・児童の受け取りの差があるだろう。 ・縦割り班活動がいきている。 ・他者を大事にする。弱者を大事にする場の設定がよい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした児童90%以上 ●「将来の夢や何らかの目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）90%以上	・キャリア・パスポートを活用し、自分自身を見つめる機会を設定する。 ・褒める機会を数多く設定し、自己肯定感を高める声かけを心がける。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を[illegible]	A	・「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」児童が97%以上で成果指標を達成した。また、「将来の夢や何らかの目標を持っている」6年児童は100%だった。今後も継続して児童を褒め、認める機会を増やし自己肯定感を高めていくようにしたい。	A	・「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」児童が97%で成果指標を達成した。朝の放送「きらり三里っ子」では、先生と児童だけでなく、児童同士が相互に褒める取り組みを行い、児童間の良好な関係を築くことができた。	A	・教師への信頼があって児童はより意欲的になる。
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答した児童（小学5年生）80%以上をめざす。 ○朝食喫食率95%以上を目指す。	・食につながる農業体験活動を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見直す機会をつくる。	B	・教育活動改善のためのアンケートで、朝食喫食率は91%達成できた。各学年で折に触れ指導を行い、全校で「家庭教育ふり返り週間」に取り組み、児童自らが意識し行動できるようにしたが、今後も継続した言葉掛けが必要である。「食の見直し」は、家庭科で学習を深めたり、給食時間の指導を活用したりして、食への意識を高めたい。	A	・教育活動改善のための最終アンケートで、朝食喫食率は96%で前回と比較して上回ったが、朝食を食べていない児童も数名おり、意識の向上を図るとともに、家庭との連携の必要性を感じた。全校で実施する「家庭教育ふり返り週間」の取組や家庭科での学習、給食時間の指導の工夫等、今後も継続した取組を行い、望ましい食習慣への意識を高めたい。	A	・朝食の喫食率100%をめざしてほ欲しい。しかし、家庭の状況によっては、難しいケースがあると思う。 ・朝食を取っていない4%の児童の原因を知りたい。
	○たくましい体づくりの推進	○継続的な体作りを推進し、やり遂げる児童を90%以上にする。	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」への参加を奨励する。	B	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」に、がんばって取り組んでいると答えた児童は89%で、昨年度よりも低下している。 ・今年度はランニングに加えて大縄跳びを行う時間を設けることで、多様な動きをしながら、体作りを行うことできている。	A	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」に、がんばって取り組んでいると答えた児童は96%で、数値目標を達成することができた。 ・スポーツチャレンジ（縦割り大縄跳び）を年間を通して行うことで、運動が苦手な児童も友達と協力しながら楽しんで体作りを行うことできた。	A	・朝ランニングの取組は、いいことだと思う。 ・楽しんで体づくりができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校行事や地域連携行事のあり方を地域役員と協力して見直す。 ・組織力で校務分掌担当業務量の軽減化を図る。	A	・「業務の見直し、効率化を図り、勤務時間を意識した働き方改革を行った」と100%の職員が回答した。昨年度同様、時間外勤務の平均時間を削減することができている。	A	・「業務の見直し、効率化を図り、勤務時間を意識した働き方改革を行った」と100%の職員が肯定的な回答をした。昨年度同様、時間外勤務の平均時間を削減することができている。	A	・100%の職員が肯定。すばらし学校運営。 ・ニュースでAIの話を聞くが、できるところは、ICTなどの機器を利用し、子どもと向き合う時間を増やして欲しい。
	○ICT利活用、行事、会議の更なる厳選	○会議の時間を60分以内とする。	・会議内容を厳選し、回数又は協議内容を減らす。 ・ICTを活用し、電子回覧板等の機能を有効活用し、会議の時短を図るとともに、資料はデータのみとし、紙での配布を大幅に減らす。	A	・会議の内容について精選し、時間を意識した提案をすることで、会議の時間を60分以内とすることができている。 ・行事や研修会などを精選し、服務研修を夏季休業の前・文書受付や会議資料はペーパーレス化することができている。	A	・職員会議資料をデータにし、ペーパーレス化することができた。保護者に回答を求める学校評価アンケートや育友会アンケート等も新たにアプリ機能を活用して、集約をの効率化を図ることができた。電子回覧板の活用などによって職員会議や連絡会の回数や時間を減らすことができた。	A	・行事、会議の厳選は難しい。効率化によって洩れそうなところにも配慮があれば幸い。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上をめざす。	・職員研修や巡回相談等で指導・支援について学び実践する。 ・適宜、校内支援委員会を開き、指導・支援の方向性を検討する。 ・月一回の生徒指導・教育相談連絡会で共通理解を図る。	A	・巡回相談等で指導支援について学び、実践に生かしている。 ・校内支援委員会で、指導・支援の方向性を話し合い、連携をとっている。	A	・職員全体で情報共有を図ると共に、巡回相談員やスクールカウンセラーの先生方から指導・助言をいただいて、指導に生かすことができた。 ・校内支援員会で検討し、必要な支援につなげることができた。 ・校内研修の事後研究会で講師の先生より、特別支援教育に関する講話をいただき、理解を深めることができた。	A	・偏見や差別がないようにして欲しい。引き続き、専門性を磨いて欲しい。 ・特別な支援が必要な児童から学ぶことが多い。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校つくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり （教育効果を高める連携）	○学校の様子が分かるような情報が発信されていると答える率95%以上をめざす。 ○保護者や地域の方と連携・協力しながら、活動できていると答える率95%以上をめざす。	・定期的な学級通信や学校便り等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・学校と育友会と地域との連携のもとに、新学習指導要領に沿った活動を推進する。	A	・「学級通信やお便りなどを利用して、保護者に情報発信を積極的に行っている。」について100%の職員ができていると回答した。 ・地域と連携した行事や育友会行事ができるようになってきた。「保護者や地域と連携・協力して教育活動に取り組んでいる。」について100%も職員が取り組んでいると回答した。	A	・「学級通信やお便り（HP含む）を利用して、情報発信を積極的に行っている」に関して、95%の保護者が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答し、数値目標を達成した。 ・「保護者や地域と連携協力しながら教育活動に取り組んでいるか」に関して、98%の保護者が、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、数値目標を達成し[illegible]	A	・他では、保護者対応で苦慮する学校もあると聞く。 ・95%～98%の保護者が、学級、学校への信頼感があること、これもまたすばらしい。 ・市報等でも発信して欲しい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。職員全体で課題や目標を共通理解し、一丸となって教育活動が行われている成果だと考える。 ・特別な支援を必要とする児童が増加傾向にあるため、校内支援体制作りをさらに充実させる必要がある。 ・「地域との連携」については、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体と協議を重ね、今後も継続して改善や見直しを図っていく必要がある。